

経済界のダイキンオーキッド

「ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント」は、毎年ゴルフシ

ーズンの到来を告げる幕開けのトーナメントとして、沖縄の琉球ゴルフ倶楽部で3月初旬に開催されているが、本年は30周年の記念の大会となった。このトーナメントはダイキン工業と琉球放送が主催者となり、1988年にスタートしたもののだが、スポーツイベントを通じて沖縄と本土の交流を図ることで沖縄の発展に寄与したいとのダイキン工業経営陣の強い意志で今日まで連続と続いており、大会も年々盛大になってきている。

また、本戦に先立って開催される前夜祭と翌日のプロアマ大会には、沖縄と本土の経済界を代表する経営者が、喜々として積極的に参加していることでも知られている。特に本年は記念大会ということもあり、前夜祭には総勢600人が集まった。ダイキン工業・井上礼之会長の軽妙洒落なウエルカムスピーチで始まり、途中、榊原定征・経団連会長や牛尾治朗・元経済同友会代表幹事のあいさつも交えながら、各企業のトップがグラスを傾けつつお互いに歓喜の声をあげながら交流を深め会場は大いに盛り上がった。

翌日のプロアマトーナメントには、女子プロ50人に財界人アマ150人が参加して、早朝7時にスタート。本年はオリ

ックスの宮内シニア・チェアマンチームが、キヤノンの御手洗会長チームを同ネットであったが年齢差で下し優勝した。関西空港の経営などをはじめとしたオリックスの事業活動の勢いを感じさせるものがある。私は17回目の参加であったが、今回は下位に甘んじてしまった。

95年からはプロアマに参加する財界人から浄財を募り、ダイキン工業側からの寄付金と合わせて「オーキッドバウンテ



大坪 清

レンゴー会長兼社長

イ」の名称でフィランソロピーとして、沖縄の文化、芸術、教育、スポーツ等への支援活動も行われている。

また、2005年からは大会スローガンをこれまでの「Together with OKINAWA」から、「沖縄と共に限らない前進」という意味の「Ever Onward with OKINAWA」へと変更し、活動をさらに強化している。わが国経済発展や社会貢献のために各企業が行うメセナ活動には、

いろいろな形態があるがこのダイキンオーキッド・プロアマ大会は日本を代表するメセナ活動として高く評価されており、一度出場参加した経営者は必ず翌年も参加したいと、強く要望をダイキン工業側に出しているようだ。

これには同社スタッフの皆さんのきめ細やかな心づくしの対応も大きく影響していると思われる。女性活躍をはじめ、ダイバーシティという面でも先頭を走る同社だが、この大会のお世話を通じて培われたおもてなしの精神が、人づくりの面でも大きな役割を果たしている。

当社も92年より「オーケストラ・アンサンブル金沢」の支援を続けている。音楽監督が故岩城宏之氏から井上道義氏へと引き継がれ、この規模とは思えないほど力強い雄大な演奏を聴かせてくれるが、今後とも年3回の当社後援の演奏会を、東京、名古屋、大阪で続けていこうと決めている。

世界情勢は混沌としており、さらに各国の指導者が交代したことで不確定さが増している。その中で日本が一番安定した指導体制を続けて世界をリードしていくためにも、一般民心の安定が不可欠であり、そのためにも各企業のフィランソロピーやメセナ活動への取組みが重要であろう。

K